

REDCap データベース作成 power query 活用ハンズオン開催

臨床研究教育管理センター／診療情報管理センター

取組概要について

医学研究では世界標準になりつつある臨床研究支援ツール REDcap を当院の病院情報管理システムの中に取り込み、蓄積された診療データベースを活用して診療の振り返りまたは研究につなげる際、どのようにデータを処理し可視化するかについて医師やメディカルスタッフ等を対象に Excel パワークエリ操作方法のハンズオンを数回実施した。

この取組のきっかけは？

病院は診療、研究、教育が三本柱になっており、また沖縄県では琉球大学病院が唯一の大学病院になっております。近年、研究不正問題などで社会問題になった影響で規制が強化され、臨床研究のために非常に煩雑な手続きと時間を要する状況となり、非常に臨床研究がしにくくなっています。

さらに、本年4月から医師の働き方改革の新制度がスタートした中、医師の時間外労働に制限がある一方、診療の努力は変わらず、医師は研究をする時間を確保するのが難しいという状況になっています。そのような中で、研究を支援し活性化させていくためにこの取組を実施しました。

どうやって解決しましたか？

時間を確保するのも難しい先生方を対象に、どのように研究を支援し活性化させていくのか、いろいろ考えた中で、診療科では普段の振り返りのためデータベースをエクセルで蓄積をしていることがあり、これを診療のみならず研究につなげる基盤にできないかと考え、病院情報管理システムの中にデータを管理するシステムを入れることで、セキュリティを担保しながら研究基盤として活用でき、そのデータを使いこなしていただくためにパワークエリ操作教育の活動をしました。

特にアピールしたい成果または効果は何ですか？

データベースを扱うという問題があり、今回データマネジメントのあるべき姿についても、この仕組みを通して理解をしていただくことと、これまで、とりあえず網羅的にデータを集め、エクセルでデータベースを作っていた中、こういったデータがどういう形式で必要なのかということを吟味し、データの選別をしたうえで、何が必要で何が不要なデータなのかを振り返るいい機会になりました。

取組みの中で難しかったことは何ですか？

忙しい先生方（医師）に、このハンズオンに参加をしていただくことが非常に大変なステップでした。そのため、ハンズオン開催日を複数用意して、参加しやすいようフレキシブルな開催に努めました。

また、パワークエリが便利なツールだと気づいていただけるとその活用は自然と広まると考えたため、ある程度研究数が多い診療科に特に集中的にハンズオン実施の周知を行い、一人の先生のみでなく、複数の先生が一緒になって参加いただける環境づくりにも配慮しました。

取組みの結果、皆さん自身の働き方に何か変化はありましたか？

DX（RX）というと、効率的な部分にだけ目が向きがちになるが、一番重要なところは効率的であることはもちろんだが、研究機関としてのデータの信頼性、データセキュリティのあるべき姿というのをしっかりと考え直して、それに対応していくということが求められているかと思います。

今回の取組みを通して、そういったことも目を向けていただくことができたのかなというふうに感じております。

以上